『 私のふるさと　神々の里：宮崎 』

私のふるさと宮崎は北の果て高千穂から南の霧島-天の逆鉾―鵜戸の産屋･･迄神話に溢れていて「新レキジョ」達が闊歩しながら新しい神話論を練っています。

先ずは宮崎ブランドの確認をしましょう。**百年の孤独**（芋焼酎）、**ういろー餅、青島せんべい、宮崎地鶏**（炭火焼）、**宮崎牛**（霜降肉）等は既に全国ブランドですが、最近はプロ野球やＪリーグのキャンプで訪れた選手やファンのリピートで**デコポン、マンゴー、冷や汁、ダゴ汁**（ほうとう）、**南限リンゴ、**が新たに評価を得始めています。　勿論、**みかんジュース、ベンベルグ**（高級服の裏地や不織布）、**MMA**（メガネ用プラスチックレンズ）、冠にサンと名のついた**産業火薬**等は世界ブランドの宮崎産品です。

宮崎は昔から特徴ある地勢や風土から次の様に色々に呼ばれています。即ち**神々の里**、**落人の里**、大友と薩摩勢の**交戦場**や**緩衝地帯**、**公儀隠密の基地**等と。又は**ニューフロンテイア**、京言葉も残る**合衆国**、**いやしランド**、**冬晴れランド**とも。

天の岩戸神社　西本宮

この中から、神々の協同作業で有名な「**天の岩戸**」の話を紹介しましょう。これは本邦初の女神によるヌードショーで、伊勢神宮を参拝した方はご存じでしょう。弟の「須佐之男命＝スサノウオノミコト」の乱暴で悪戯振りに悩まれた、姉神で皇祖の「天照大神＝アマテラスオオミカミ」は厚い戸の岩屋の中にお隠れになりました。その為天地は真っ暗になり疫病がまん延し大混乱になりました。

これには「八百万の神＝ヤオヨロズノカミ」や人民は困り果ててしまいました。神々は協議の上で「天鈿女命＝アメノウズメノミコト」に頼み、「天照大神が隠れる岩屋」前の「岩戸川河原の大岩」上でヌードショーを舞って貰い「大はしゃぎ」をしました。大騒ぎの喧騒を内から聞いた天照大神が様子を確かめようと岩戸を少し開けた瞬間、待ち構えていた「天手力男神＝アメノタジカラオノカミ」が入口の岩戸を開けてこれを投げ飛ばし天照大神を連れ出した上 2 度と入れない様にしめ縄で封印しました。お陰で天地には光が満ち泰平が回復しました。

この「**天の岩戸**」の洞穴や舞台の大岩は、皇室の伝承遺跡として拝観できますよ。
日向の郷全域で古事記の上巻（天孫降臨～神武天皇東征まで）の伝承遺跡は限りが有りませんが、北方民族（大陸･特に韓国人＝山幸命）と南方民族（東南アジア人･海洋民族＝海幸命）が抗争と妥協を繰返した歴史を追憶したり、急峻な山々のお陰で京の都や朝鮮半島の抗争に敗れた一族が落ち延び得た史話、特に平家の落人の鶴富姫と源氏の追討使=那須の大八郎の悲恋・朝鮮半島の政争で敗れた百済一族が乗った船や追手勢の船が遡上した川（私の実家のある高鍋町を流れる小丸川）の　河岸に立っての想像・百済の遺品館（西の正倉院）で宝物を拝観しながらの懐想は楽しい事です。逃込んだ人々は外界との接触を遮断した為、今なお昔の慣習や言葉が生き残っています。突然の京なまりに驚きつつ**フロンテイア**並に新設の温泉（多くは冷泉の沸し湯）に浸った上で、1500 年～1000 年前の貴族になっての　食事は極上の癒しで命の洗濯になり、若返りの妙薬であること請け合いです。

平成２７年１月　田嵜　隆三